

# コンパス薬局瀬谷 スキルアップ勉強会

2018. 7. 26 作佐部

## 第84回『アメナリーフ錠』

マルホ株式会社 中村 裕之さま

参加者：松本、佐藤(綾)、木元、阿部、遠藤、作佐部

夏から秋にかけて帯状疱疹の患者数が増えることが報告されている。帯状疱疹は抗ヘルペスウイルス薬で発症早期から治療することが重要である。そこで昨今、新しい作用機序であるアメナリーフが注目されている。

### 【効能・効果】

帯状疱疹

### 【用法用量】

通常、成人にはアメナメビルとして1回 400mg を1日1回食後に経口投与する。

### 【使用上の注意】

重要な基本的注意

1. 本剤の投与は、発病初期に近いほど効果が期待できるので、早期に投与を開始すること。なお、目安として皮疹出現後5日以内に投与を開始することが望ましい。
2. 本剤は、原則として7日間使用すること。改善の兆しが見られないか、あるいは悪化する場合には、速やかに他の治療に切り替えること。
3. 本剤は、悪性腫瘍や自己免疫性疾患など免疫機能の低下を伴う患者に対する有効性及び安全性は確立していない。

### 【作用機序】

アメナメビルは、ヘルペスウイルスのヘリカーゼ・プライマーゼ複合体の DNA 依存的 ATPase 活性、ヘリカーゼ活性及びプライマーゼ活性を阻害することにより、ヘルペスウイルスの DNA 複製を阻害する。

### 【特徴】

- ・新規作用機序の抗ヘルペスウイルス薬である。
- ・1日1回の投与で帯状疱疹に効果を示す。
- ・クレアチンクリアランスに応じた投与量設定の必要がない。

### 【副作用】

主な副作用は、 $\beta$ -N アセチル D グルコサミニダーゼ増加9例(2.8%)、 $\alpha$ 1 ミクログロブリン増加6例(1.9%)、フィブリン分解産物増加5例(1.6%)、心電図 QT 延長4例(1.3%)であった。

### 【考察】

既存の抗ヘルペスウイルス薬は1日3回の投与が基本であったが、アメナメビルは1日1回の服用でバラシクロビルと同等の抗ウイルス活性を示す。患者の服薬回数が減ることで、飲み忘れや負担を軽減することができる。また、既存の抗ウイルス薬は主に腎臓で代謝される薬剤が多く、患者のクレアチンクリアランスに基づく用量調節が必要であったが、アメナメビルは主に糞中に排泄されるため、腎機能が悪い患者にも使いやすい。しかし、肝代謝(CYP3A)の薬剤であり、CYP3A及びCYP2B6を誘導するため、その他の肝代謝薬物との相互作用に注意しなければならない。

### 【質問事項】

Q. 1日の服用時点での効果の差はあるのか？

A. ない。但し、空腹時の服用では血中濃度が低下するので、必ず食後に服用してもらいたい。

Q. 患者に応じて用量調整して処方されているケースはあるのか？

A. ない。添付文書とは異なる用量であれば疑義照会が必要。

以上